The Whisper from Amherst



エミリィのささやき

今回とりあげる詩は、エミリィの本来の性格である快活さやお茶目ぶりが感じられるかわいらしい詩です。

金ケ崎町の姉妹都市、マサチューセッツ州のアマースト町の特産品のひとつはcramberryです。甘酸っぱくてとてもおいしく、ドライフルーツとしてそのまま食べたり、お菓子に入れられるのはもちろん、お料理の材料としても使われます。



‘The morns are meeker than they were’

The morns are meeker than they were—	朝が前よりも、遠慮がちにやってくるようになった。
The nuts are getting brown—	木の実はだんだん茶色くなって、
The berry’s cheek is plumper	クロイチゴもキイチゴもほっぺがふくらみ、
The Rose is out of town.	バラの花は旅に出て、しばらく帰ってこないはず。
The Maple wears a gayer scarf—	カエデの木は派手なスカーフを巻き、
The field a scarlet gown—	野原も赤いフリルのついたドレスを、着はじめた。
Lest I sh'd be old fashioned	この流行におくれてしまわないように
I’ll put a trinket on.	わたしもなにかアクセサリーをつけよう。





（岩波少年文庫「ガラガラヘビの味」
アーサー・ビナード/木下 涼 編訳　より）

